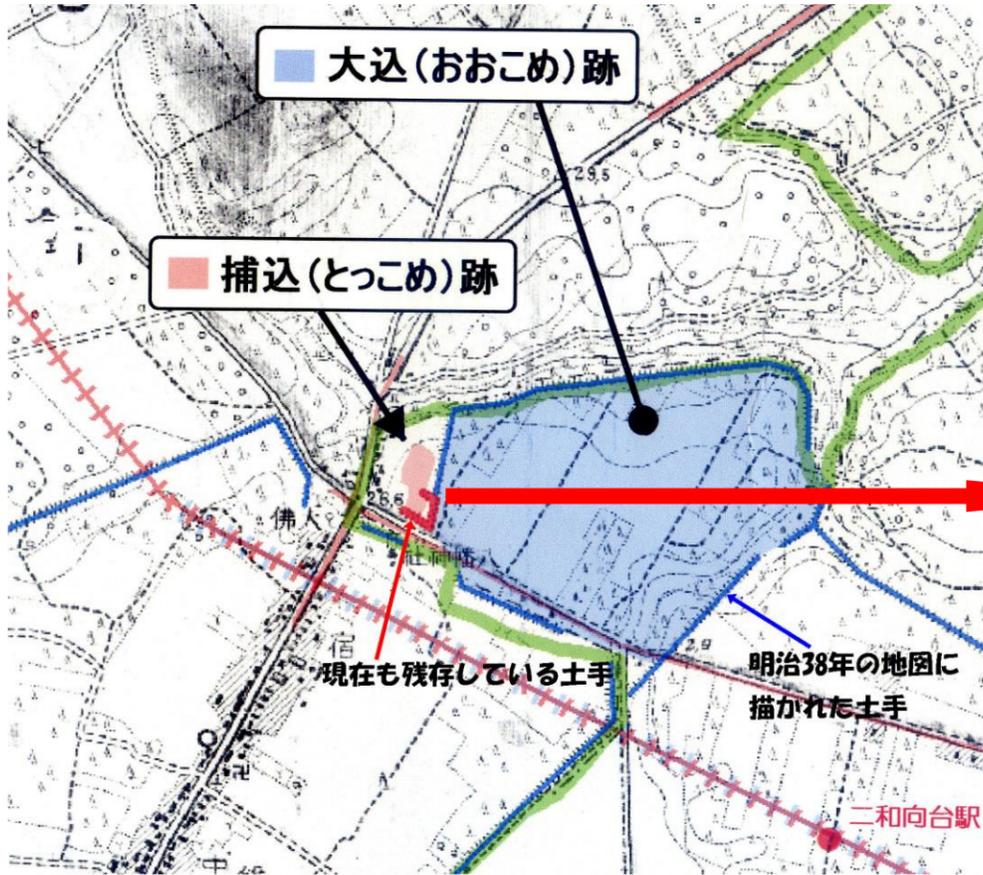


こがねしものまきとっこめあと  
**小金下野牧捕込跡** (船橋市咲が丘1丁目)

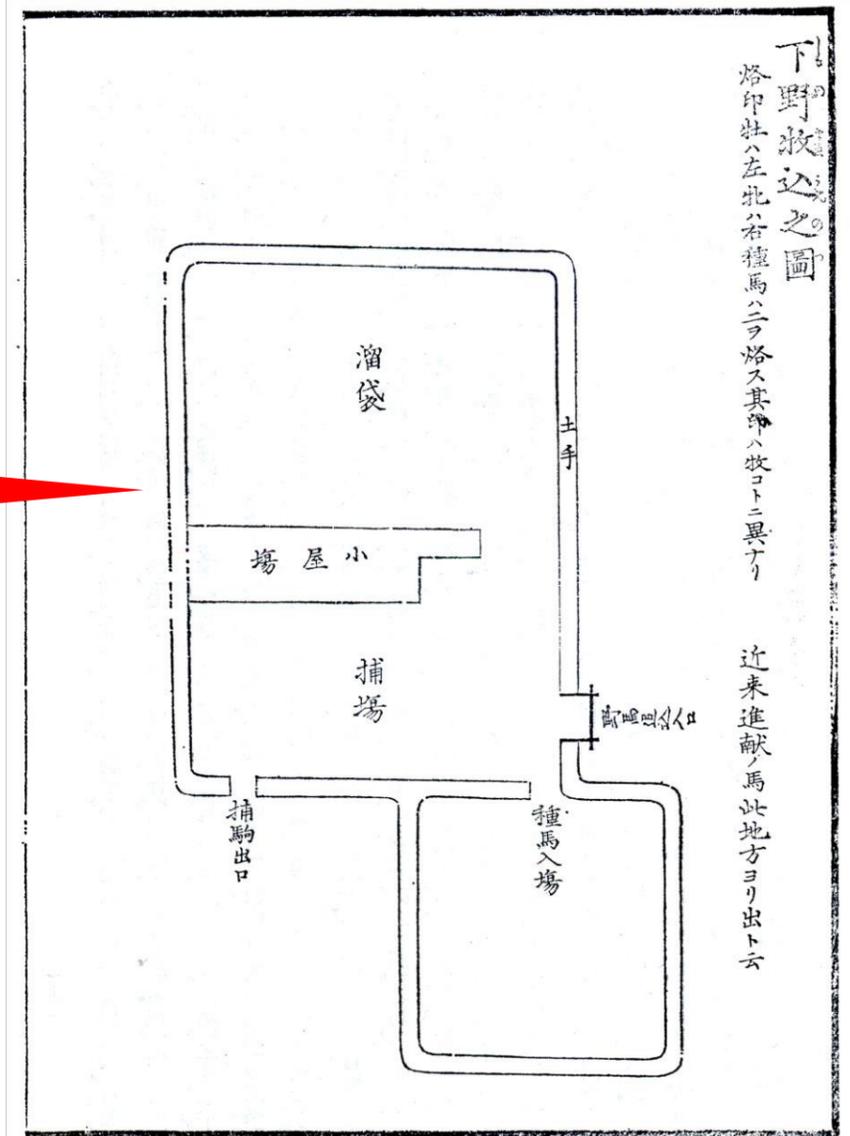


明治 36 年大日本帝国陸地測量部作成 二万分之一地図に描かれた野馬土手



エビゾー

江戸時代の牧場の馬を追い  
 込む施設があったよ



下野牧込之圖 (しものまきこめのず) 『成田名所図会』より

めがね形の捕込(とっこめ)へ野馬を追い込んで選別します

江戸時代、下総の国(千葉県北西部主体)の広い台地上には、江戸幕府が軍事用の馬を確保するために作った直轄の馬の放牧場(馬牧)があり、西は小金牧、東は佐倉牧と呼ばれました。小金牧は五牧あり、そのうちのひとつが下野牧であり、船橋市域中央の二和・三咲から薬円台にかけての台地上に広がっていました。広大な牧は人工的に築いた土手と谷などの自然地形によって囲まれ、馬は放し飼いにされていました。牧ではほぼ年に1回、野馬を捕獲する野馬捕りが行われました。捕込は野馬を追い込んで捕獲・分別するための施設で、土手によって大小二つに区画されています。捕込では馬の雌雄や年齢などを確認して分別し、将軍家へ献上する馬とそれ以外に仕分けされました。下野牧捕込はこの公園の西側にありましたが、現在は殆ど消滅して、畑の中に土手の一部がわずかに残っています。

大込は野馬を効率よく捕込へ追い込むために、捕込の手前に設けられた広い施設です。現在も公園の西側に大込の土手の一部が残っています。



下野牧野馬執(しものまきのまとり)の図 『成田名所図会』より  
 捕込(とっこめ)の中で野馬をつかまえている様子を描く